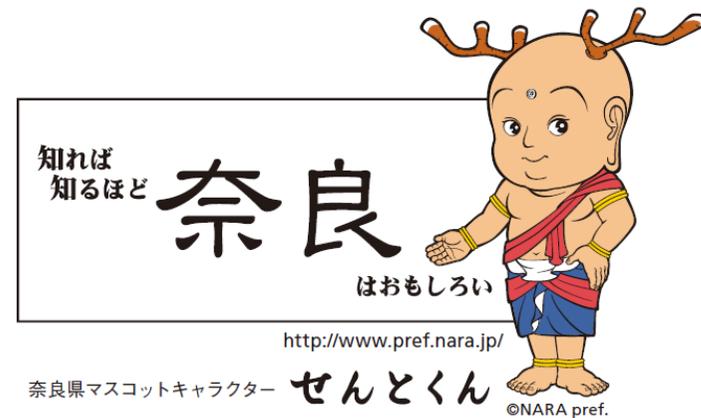


奈良県の地域移行の取り組みについて



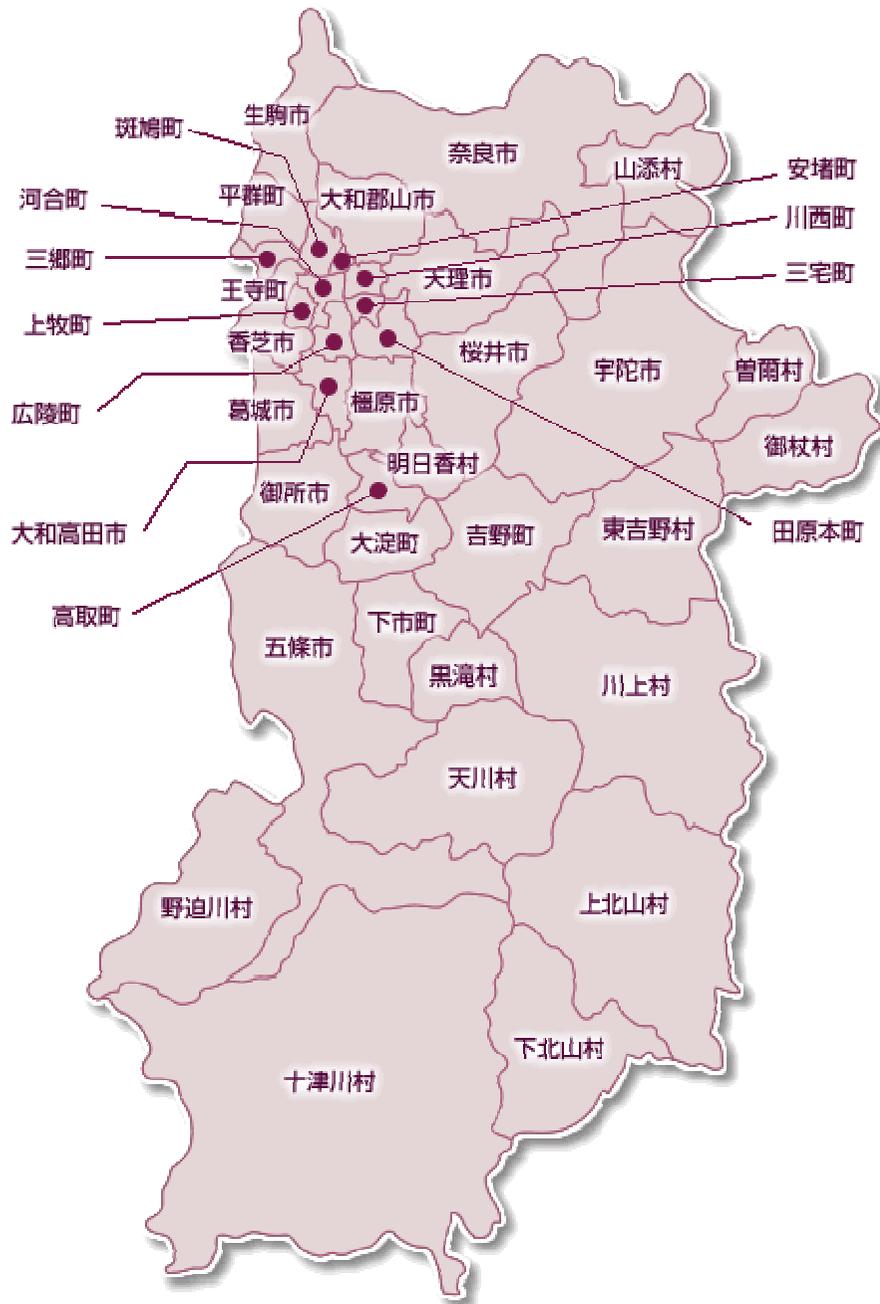
内容

- 1 行政の取り組み
(奈良県精神保健福祉センター)
- 2 精神科病院の取り組み
(独立行政法人国立病院機構
やまと精神医療センター)
- 3 地域活動支援センターの取り組み
(社会福祉法人寧楽ゆいの会
地域活動支援センターこもれび)

1 行政の取り組み

奈良県精神保健福祉センター

～奈良県～



◆人口：1,367,792人
(H28.1.1)

◆世帯数：583,466世帯

◆自治体数：39市町村

うち中核市1市

◆精神科病院数：10病院

2,898床

◆精神科診療所数：50数ヶ所

◆精神障害者手帳所持者数：

8,114人(H27.6月末)

◆自立支援医療(精神通院)

受給者数：

15,085人(H27.6月末)

基本情報

障害福祉圏域数	5 圏域(奈良・西和・中和・東和・南和)
保健医療圏域	5 圏域(奈良・西和・中和・東和・南和) 精神病床に関しては全県 1 圏域
入院者数 H26 精神保健福祉資料 630調査より	2, 456 人 うち1年以上の入院者数：1, 502 人
平均在院日数 (精神病床) H26 病院報告より	265.5 日(全国平均：281.2 日)
保健所	4ヶ所 (郡山、中和、吉野、奈良市)
相談支援事業所	一般相談支援事業所： 60ヶ所(H28.2.1)
	特定相談支援事業所： 169ヶ所(H28.2.1)

奈良県障害福祉計画

	H25年 実績	H26年 見込み	H31年 目標
①入院後3ヶ月 時点の退院率	51.9%	51.9%	65.0%
②入院後1年 時点の退院率	75.4%	75.4%	91.0%
③在院1年以上 の長期入院者数	1,482人	1,482人	1,200人

人材育成の取り組みの経緯

◆H25年 精神障害者地域移行推進研修会

→地域移行の必要性の理解、県内実践事例の報告、ワークショップ

※官民共同の実行委員会形式で企画し、支援の三角点設置研究会と共催

◆H26年 精神障害者地域移行推進研修会

→精神保健福祉法一部改正を踏まえ、顔の見える関係をつくり、各圏域での地域移行を推進することを目的に開催

※官民共同の実行委員会形式で企画し、豊岡健康福祉事務所 柳所長から「日本の社会的入院の現状とれからの地域移行について」講義、精神科病院の取り組みの報告、葛城圏域の取り組みの報告、当事者の体験談、兵庫県淡路圏域でのピアサポーターと連携した地域移行の取り組みについての講義、グループワーク

地域移行の取り組みの経緯

- ◆H15～ 精神障害者退院促進支援事業
- ◆H20～ 精神障害者地域移行特別対策事業
- ◆H21～23 精神障害者地域移行・地域定着支援事業
- ◆H24～ 精神障害者地域移行・地位的定着支援事業の
障害福祉サービス個別給付化

※その他、精神科病院実地指導で地域移行への取り組み
の協力依頼

精神保健福祉センターの取り組み

◆精神科病院ソーシャルワーカー連絡会

→県内10精神科病院に配属されているPSWのネットワーク強化を目的に開催。各病院の地域移行支援の課題の共有や実践報告、病院から見た地域移行推進のための課題について意見交換を行った。

◆地域活動支援センター連絡会

→各地域活動支援センターのPSWのネットワーク強化を目的に開催。病院と連携した当事者活動の情報交換や、地域から見た地域移行推進のための意見交換を行った。

◆市町村・保健所精神保健福祉専門職連絡会

→行政機関に所属するPSWと地域移行の推進をテーマに開催

◆精神障害者地域移行推進研修会

来年度以降の抱負・戦略

◆地域移行推進のための人材育成について

- ・精神保健福祉センター等で開催する研修会や連絡会の場を通して人材育成を図る。

◆地域移行の推進について

- ・精神保健福祉センター等で開催する研修会や連絡会の場で地域移行支援に関わる福祉事業所、病院、行政の各関係機関の地域移行推進に向けた連携を深めていく。
- ・各圏域の取り組みを把握し、圏域ごとに支援の差がないよう推進していく。
- ・研修会や連絡会等で出た課題を共有するだけで終わらせず、いかに推進するか検討する場を設ける。

2 精神科病院の取り組み

独立行政法人国立病院機構
やまと精神医療センター

精神科病院の取り組みについて



独立行政法人 国立病院機構

やまと精神医療センター

医療社会事業専門員 前田 智

＜地域移行・地域定着研修＞

目的：地域移行・地域定着支援に関して、**当事者の思いや当院での取り組み、今後の方向性を理解することで、職員の退院促進に対する意欲・関心の向上を図る。**

開催要項

平成25年度 「地域移行・地域定着研修」開催要項
テーマ：～長期入院者の退院体験談と地域移行に向けた取り組み～

1. 目的：
地域移行・地域定着支援に関して、当事者の思いや当院での取り組み、および今後の方向性を理解することで、職員の退院促進に対する意欲・関心の向上を図る。
2. 目標：
1) 長期入院の経験のある当事者の発表を聞くことで、退院できない気持ちや立場を理解する。
2) 入院から退院までの流れおよび地域の関係機関との連携の実際について理解できる。
3) ニューロングステイを防ぐための関わりについて理解できる。
3. 主催
独立行政法人 国立病院機構 やまと精神医療センター
4. 共催
地域活動支援センター ふらっと
5. 日時・場所
平成26年 2月 28日(金) 午後2時～午後3時30分
やまと精神医療センター 研修棟 (大和郡山市小泉町2815番地)
6. 受講対象者
やまと精神医療センター職員、行政、医療、福祉機関の専門職
(医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、作業療法士、社会福祉士等)で精神障害者の地域移行支援・地域定着支援業務に携わっている方、今後携わる予定のある方
7. プログラム

時間配分	内容
14:00～14:05	5分 開会挨拶オリエンテーション
14:05～14:30	25分 当事者発表「長期入院及び退院後の体験談」
14:30～14:40	10分 地域活動支援センターふらっとと当院入院患者様との交流会～えーぼるについて～
14:40～14:50	10分 大和郡山市役所障害福祉課の役割について
14:50～15:00	10分 生活支援センターふらっとの役割について
15:00～15:10	10分 保健所の役割について
15:10～15:20	10分 質疑応答
15:20～15:25	5分 まとめ
15:25～15:30	5分 アンケート記入

8. 問い合わせ先
やまと精神医療センター 地域医療連携室 Tel0743-52-3081 (内線 377、379)

担当：前田医療社会事業専門員・木下退院調整看護師

ポスター

平成26年度
第3回地域移行・地域定着研修
～精神科入院歴があり、現在地域生活を送っている方の
体験発表会～

日時：平成26年11月28日(金)13:30～15:00
場所：研修棟

内容

1. 精神科入院歴がある方の体験談を聞く
①入院までの経過 ②入院中の様子 ③退院しようと思ったきっかけ
④退院後の生活について ⑤在宅生活で利用している社会資源について⑥今後の目標について ⑦職員に望むこと
2. 質疑応答
3. まとめ



担当：地域医療連携室(前田・木下)

<地域移行・地域定着支援の概要について>



<退院支援の事例検討、事例検討で生じた疑問・課題について意見交換>



当院での実際の事例をもとにグループワーク形式で事例検討会を実施しました。看護師や精神保健福祉士などと活発な事例検討となりました。

<精神科病院に入院経験のある方による体験発表>



平成27年度 精神科地域移行・地域定着研修

～入院したこと、そして今の私たちの暮らしについて体験発表会～

やまと精神医療センターでは精神障害者地域移行に関する取り組みの一環として、毎年、セミナーを開催しています。当セミナーは精神科に入院されていた患者さんが退院後、地域でどのように生活しておられるのか生の声をお聞き頂くことで、精神科医療のやりがいや課題を発見し、今後の活動の活力にして頂くことを主題としています。

日 時：平成27年11月21日（土） 13:30～16:30（開場13:00）

場 所：大和郡山市民交流館 3F大会議室（JR郡山駅徒歩1分、近隣駐車場有り）

対象者：医療、福祉機関、行政の専門職、【医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、作業療法士、社会福祉士等で精神障害者の地域移行支援・地域定着支援業務に携わっている方、今後携わる予定のある方（学生歓迎）等】

定 員：80名 先着順（会場準備の都合上、別紙の参加申込書にてお申込み下さい） ※参加費無料

【プログラム】

時間配分	内容	担当
13:30～13:35	5分 開会挨拶	事務部長 塩見 拓
13:35～13:40	5分 オリエンテーション	地域医療連携室職員
13:40～14:00	20分 精神障害者地域移行への取り組み	奈良県 医療政策部 保健予防課 主任調整員 村田 清様
14:00～14:30	30分 やまと精神医療センターの医療とこれからについて	副院長 井上 眞
14:30～14:50	20分 休憩・アフタヌーンティー	小会議室にて
14:50～15:15	25分 当事者発表 入院したこと、そして今の私たちの暮らし～入院までの経過・質疑応答～	Aさん Bさん Cさん
15:15～15:40	25分 ～入院から退院まで・質疑応答～	地域活動支援センター職員 *Aさん、Bさん、Cさんは精神科
15:40～16:05	25分 ～退院から現在まで・質疑応答～	に入院歴があり、現在地域で生活している当事者の方
16:05～16:10	5分 まとめ	地域医療連携室職員
16:10～16:20	10分 総評	地域医療連携係長 山本 樹壽
16:20～16:30	10分 アンケート記入	地域医療連携室職員

お問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 やまと精神医療センター

〒639-1042 奈良県大和郡山市民小泉町 2815 番地

TEL:0743-52-3081（代表） 担当：地域医療連携室（前田・石田・橋爪 宛）

お問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 やまと精神医療センター

〒639-1042 奈良県大和郡山市民小泉町 2815 番地

TEL:0743-52-3081（代表） 担当：地域医療連携室 宛

独立行政法人・国立病院機構 やまと精神医療センター

平成27年度 精神科地域移行・地域定着研修

当院の取り組みや奈良県の現状、精神科に入院経験のある方からのお話をうかがい、様々な角度から地域移行・地域定着について考えます。



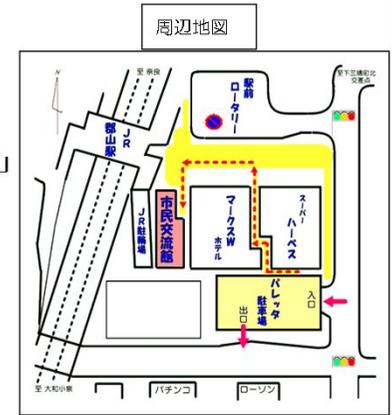
日時：平成27年11月21日（土）13時半～16時半（13時より開場）

場所：大和郡山市民交流館 3階 大会議室（大和郡山市民小泉町 92-16）

* JR郡山駅徒歩1分、近隣駐車場あり

プログラム：

- 「精神障害者地域移行への取り組み」
奈良県 医療政策部保健予防課
主任調整員 村田清氏
- 「やまと精神医療センターの医療とこれからについて」
やまと精神医療センター 井上 眞副院長
- 当事者発表
「入院したこと、そして今の私たちの暮らし」
地域活動支援センター ぷらっと 利用者の方々



お問い合わせ

独立行政法人 国立病院機構 やまと精神医療センター

〒639-1042 奈良県大和郡山市民小泉町 2815 番地

地域医療連携室

TEL 0743-52-3081 FAX 0743-54-6060（直通）



主催 やまと精神医療センター 共催 社会福祉法人 萌 地域活動支援センター ぷらっと

研修内容

①精神障害者地域移行への取り組み

奈良県 医療政策部 保健予防課職員

②やまと精神医療センターの医療と

これからについて

やまと精神医療センター 副院長

③当事者発表

～入院したこと、そして今の私たちの暮らし～

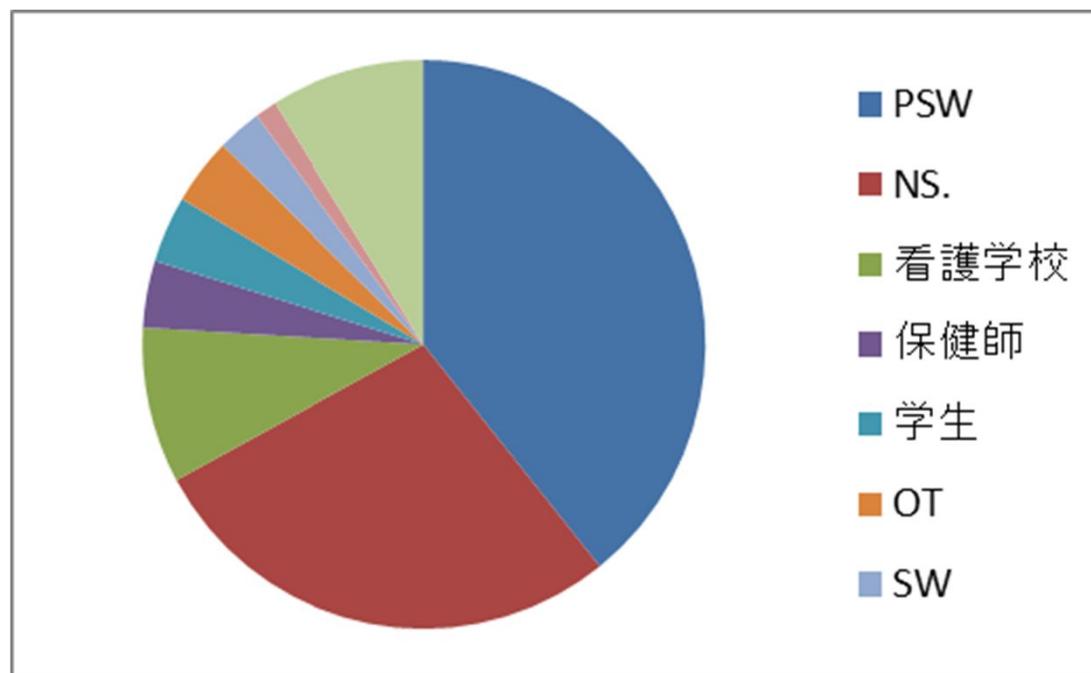
地域活動支援センター利用者

平成27年度 精神科地域移行・地域定着研修の様子



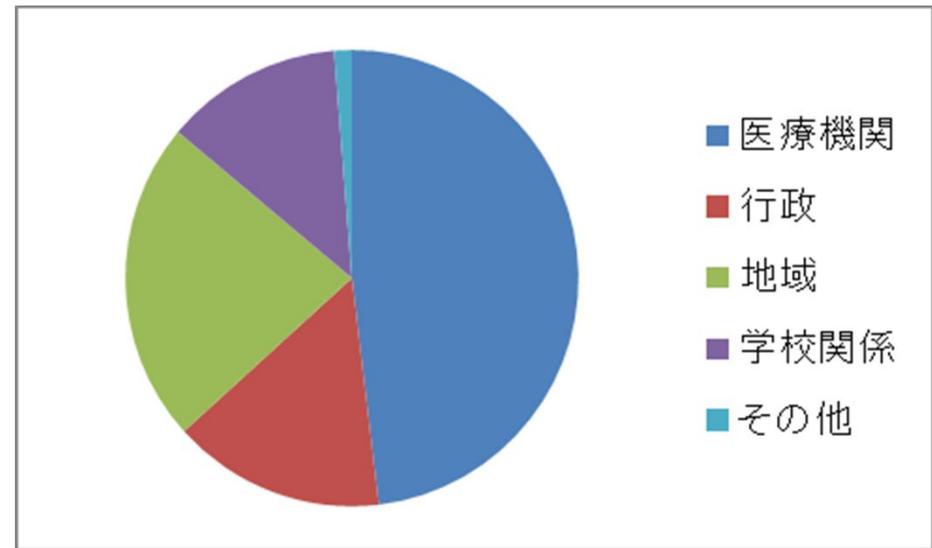
<参加者内訳>

職種	
PSW	31
NS.	22
看護学校	7
保健師	3
学生	3
OT	3
SW	2
Dr.	1
その他	7
合計	79



<所属機関内訳>

医療機関	38
行政	12
地域	18
学校関係	10
その他	1
合計	79

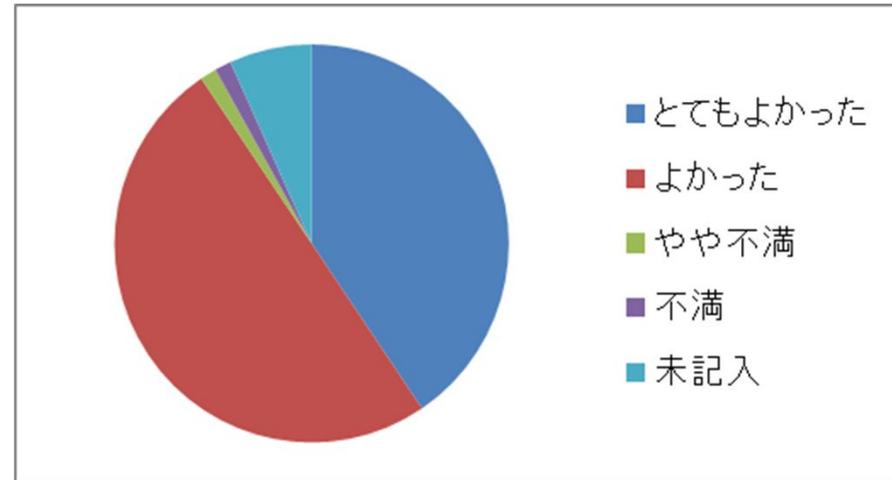


行政・・・精神保健福祉センター・保健所・市役所(障がい福祉課)・地域包括支援センター等
地域・・・ケアマネジャー・相談支援専門員・就労継続支援B型等
学校関係・・・看護学校教員・短大教員・看護学生

<アンケート結果>

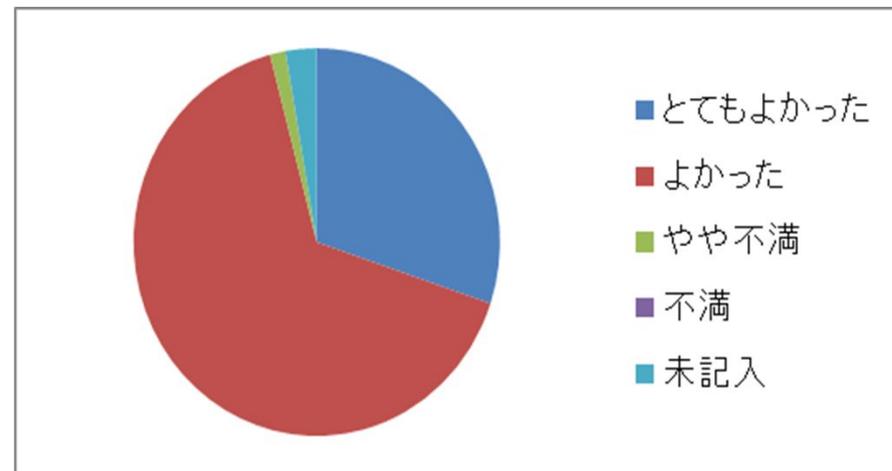
①精神障害者地域移行への取り組み

とてもよかった	30
よかった	37
やや不満	1
不満	1
未記入	5
合計	73



②やまと精神医療センターの医療とこれからについて

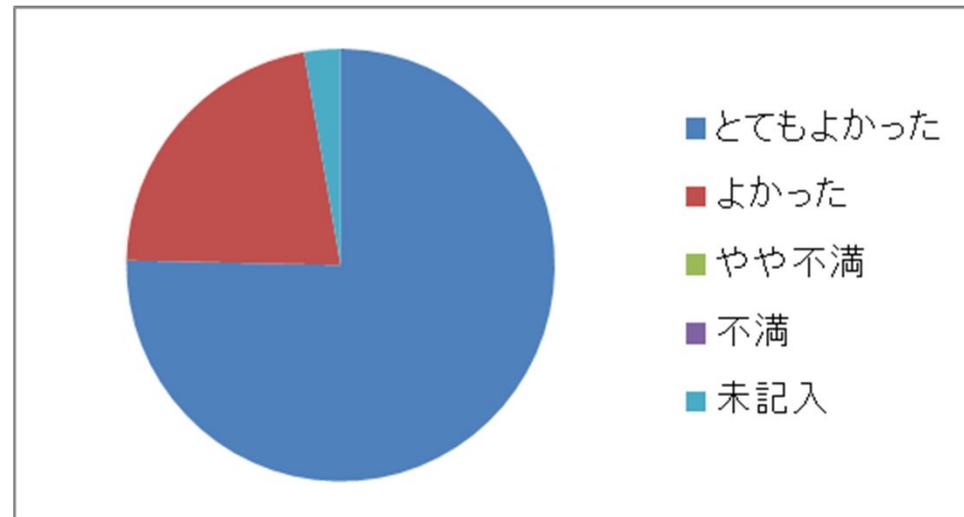
とてもよかった	22
よかった	48
やや不満	1
不満	0
未記入	2
合計	73



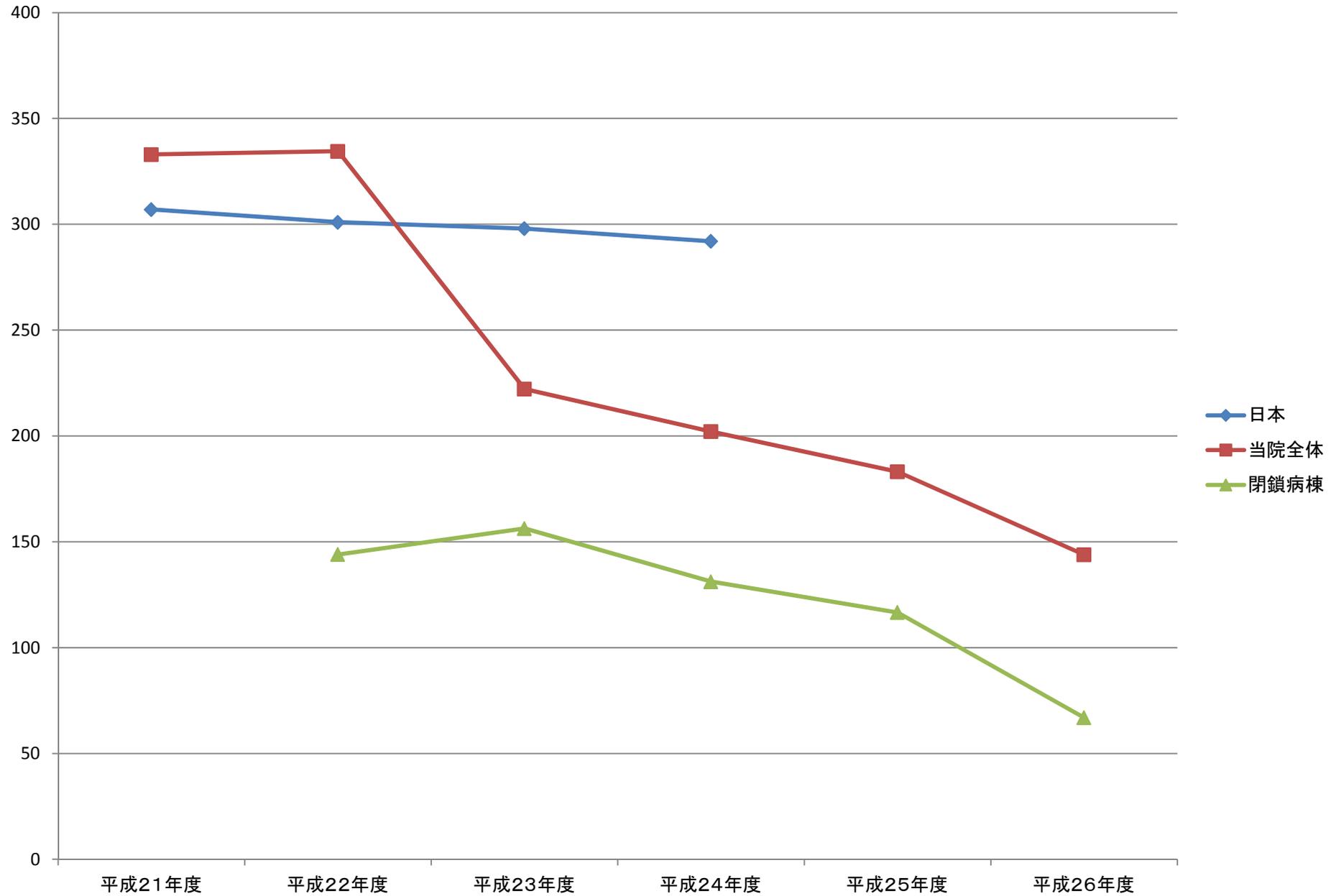
③当事者発表

～入院したこと、そして今の私たちの暮らし～

とてもよかった	55
よかった	16
やや不満	0
不満	0
未記入	2
合計	73



平均在院日数の変化



医療機関からのまとめ

- ◆平成25年度から地域移行・地域定着研修を行っている。研修会や実際の事例を通して、スタッフ間で意識づけに繋がってきていると考える。しかし、入院時から退院を見据えた支援をイメージし関わることが大切である。
- ◆地域移行・地域定着支援のためには、地域連携が必要であり、「顔の見える関係」から「顔の分かる関係」に繋がりたい。
- ◆地域連携するためには院内連携が必要不可欠。

3 地域活動支援センターの取り組み

社会福祉法人寧楽ゆいの会
地域活動支援センターこもれび

天理市での取り組み

◆病院での交流会

年に1回、市内にある精神科医療機関で交流祭を開催。

圏域内の地域活動支援センター、B型事業所、家族会が授産品や雑貨品、地産野菜のバザーなど模擬店を出店している。

入院している患者やその家族、通院している患者はもちろん、医師や看護師やCP、OTなど医療職や地域住民に施設の活動の様子を知ってもらえる機会となっている。

◆入院中の地域活動支援センターの体験利用

長期に入院している人の中で、退院後居住先が決まっていな
いが退院を希望している人の退院意欲を高めたり、施設を知っ
たり、病院以外の場所での楽しみを見つけるような一つのきっ
かけになればと、試行的に病院と話し合いながら始めている活
動。

入院中、外出の機会を利用して、こもれびを見学、体験でき
ます。昼食会やお茶会などのプログラム活動にも体験可。